

## 第2章 京阪萱島駅周辺地区における

### 交通バリアフリー推進の必要性と意義

#### 2-1. 京阪萱島駅及び周辺道路のバリアフリー化の状況

##### (1) 京阪萱島駅のバリアフリー施設の整備状況

京阪萱島駅は高架駅で、バリアフリー施設の設置状況についてみると表2-1のようになっています。

京阪萱島駅では、東(京都側)改札口と西(大阪側)改札口の2箇所があり、これら改札口間は駅構内のコンコースでは結ばれていません。西改札口からプラットホームまでは、上りエスカレータが設置されています。

東改札口の駅前広場からプラットホームまでは、一部中間階まで上りエスカレータが設置されていますが、それ以外は、主に階段だけです。

プラットホームからいずれの改札口へも下りエスカレータは設置されておらず、車いす使用者のみならず、高齢者、下肢障害者、視覚障害者などの駅の利用に際して不便な状況にあります。東改札口ではプラットホームまで階段を利用しなければならず、特に、不便な状況にあります。

図2-1 京阪萱島駅の出入口や構内の階段やエスカレーター



表2-1 京阪萱島駅のバリアフリー設備の設置状況

チェック項目		設置状況		
エレベータ	駅周辺道路～改札	×		
	改札～ホーム	大阪方面	×	
		京都方面	×	
エスカレータ	道路～改札	上り	-	
		下り	-	
	改札～ホーム	大阪方面	上り	
			下り	×
		京都方面	上り	
			下り	×
階段	踏面、蹴上高(標準)			
	車いす対応券売機			
	車いす用自動改札			
	車いす用トイレ	×		
	車いす用公衆電話	×		
	公衆ファックス	×		
	誘導・警告ブロック			
	点字券売機			
	触知図・誘導鈴			
	ホーム列車案内装置			

...設置済 ...西改札口に設置、東改札口は未設置

## (2) 京阪萱島駅周辺道路のバリアフリー化の状況

京阪萱島駅周辺道路のバリアフリー化の状況について、平成 16 年 9 月に京阪萱島駅周辺に居住する高齢者や身体障害者、乳児を有する世帯を対象に実施したアンケート調査結果から移動(通行)の支障になっている問題箇所をみると図 2 - 2 のようになります。

また、高齢者や身体障害者、乳児を有する保護者が参加して行った駅や駅周辺の道路のバリアフリー点検調査(タウンウォッチング調査)における問題箇所等の指摘事項をみると図 2 - 3 のようになります。

図 2 - 2 や図 2 - 3 に示されるように、高齢者や身体障害者などからは主に次のような問題が指摘されています。

駅の改札口とプラットホーム間は、西改札口からは上りエスカレータが設置されているだけであり、上下移動が困難である。

駅前広場は、放置自転車が多く、しかも、点字ブロックの上にも放置自転車があり、通行に支障がある。市道萱島本町 1 号線に連絡するスロープの勾配がきつい。

市道萱島堀溝線は、車の通行量は結構あるが、歩道が設置されていなく、車の駐車、はみ出し看板、放置自転車、電柱などがあり、通行の障害になっている。また、人の通行帯を区分している白線も薄く消えかかっている。

府道木屋門真線は、大型車などの自動車の通行が多いにもかかわらず歩道が設置されていないため、歩行者が危険である。

市道萱島御幸線や市道萱島本町 1 号線は、歩道の区分はされているが、狭くて斜めになっており、車イス、ベビーカーなどは通行しにくい。

駅の改札口への通路などに放置自転車が多く、通行の障害になっている。

駅周辺のいずれの交差点においても信号の歩行者用横断時間が短く、また、信号機が見えにくいところもあり、横断がしにくい。また、音声信号が設置されていない交差点もある。

図2-2 アンケート調査結果からみた駅及び駅周辺道路の整備課題（高齢者等が移動（通行）に際して困っている問題箇所）

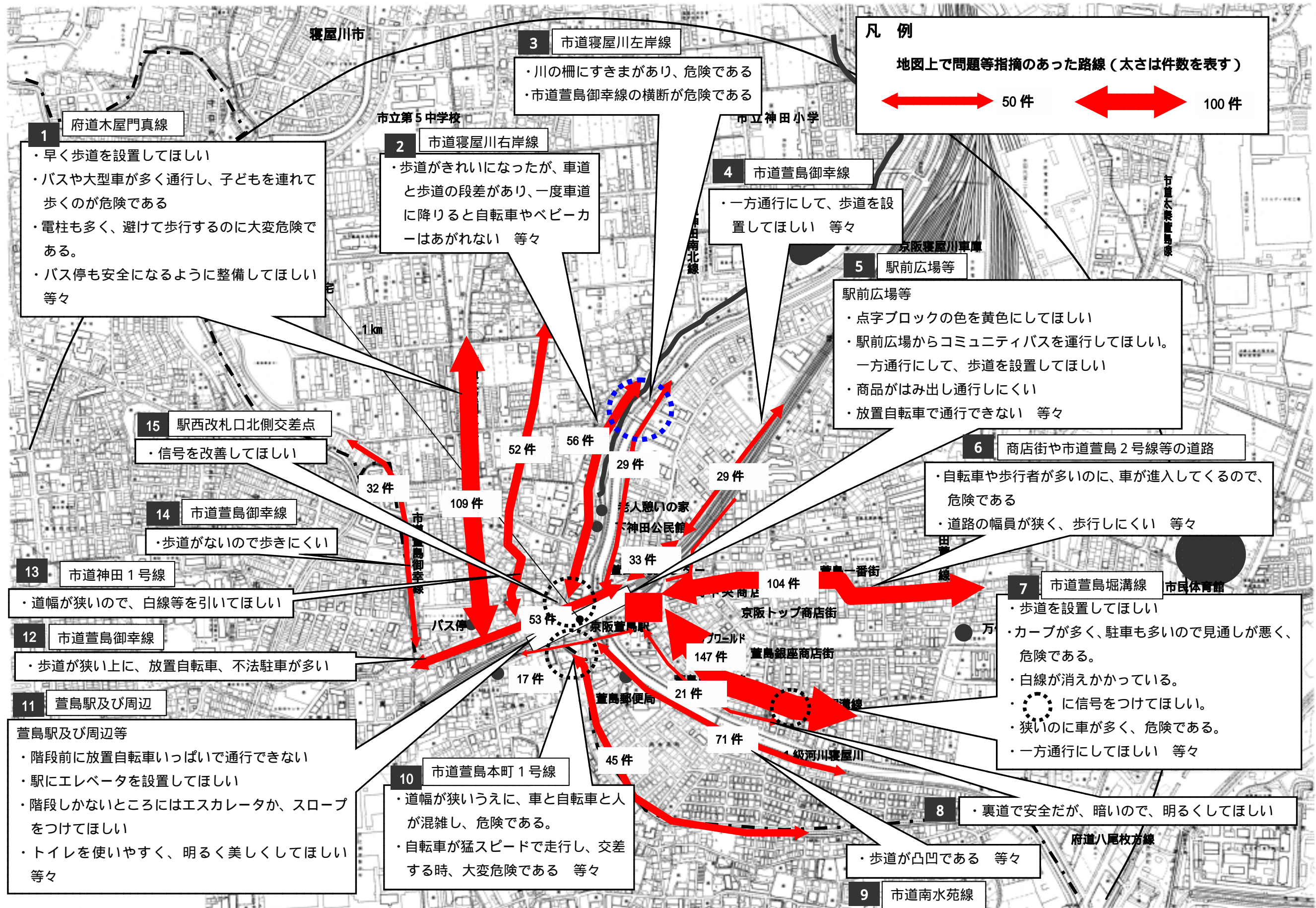


図2-3 バリアフリー点検（タウンウォッチング）調査結果からみた駅及び駅周辺道路の整備課題（高齢者等が移動（通行）に際して困っている問題箇所）



## 2 - 2 . 京阪萱島駅周辺地区における交通バリアフリー推進の必要性

市民の暮らしの拠点となっている市内鉄道4駅(京阪香里園駅、京阪寝屋川市駅、京阪萱島駅、JR東寝屋川駅)を中心に、高齢者や身体障害者などが安心して便利に暮らせるよう、市民の理解と協力のもとにバリアフリー化を推進していく必要があります。

特に、公共交通機関を利用した移動の円滑化を推進するためには、市内の鉄道4駅すべての旅客施設とその周辺の道路において一体的にバリアフリー化を推進していくことが望まれます。

しかし、国、府及び本市の財政事情やバリアフリー化を推進するための関係者が多岐にわたることなどから、すべての駅や駅周辺で同時にバリアフリー化への取り組みを推進することは困難な状況にあります。

京阪香里園駅や京阪寝屋川市駅の周辺道路については、市街地の整備などに際してバリアフリー化を推進してきています。また、JR東寝屋川駅については、平成14年度に策定した「JR東寝屋川駅周辺地区交通バリアフリー基本構想」に基づき、駅や周辺道路などのバリアフリー化を推進していきます。

京阪萱島駅周辺においても、都市再生緊急整備地域の指定にともなう市街地整備をさらに推進し、駅周辺の発展とともに、駅周辺の商業施設などを中心に地域の人々の交流の場として発展していくことが期待されています。

特に、高齢者や身体障害者、乳児のいる保護者などから、旅客施設(鉄道駅)では階段を経由しなければならない経路もあり、駅での円滑な移動や駅周辺の道路においても歩行者の安全確保や移動の円滑化を図るための整備が求められています。

## 2 - 3 . 京阪萱島駅周辺地区の将来方向と交通バリアフリー推進の意義

寝屋川市の将来像を示す「第四次寝屋川市総合計画 - 新時代 協働・夢プラン - ふれあいいいき元気都市をめざして」では、21世紀における社会・経済を取り巻く潮流を踏まえ、大阪都市圏・近畿圏における今後の都市化の動向に留意しつつ、広域圏における機能分担と連携を図りながら、独自性を活かした寝屋川市らしいまちをつくることをめざしています。

そのため、「市と市民、事業者がともに協働の輪を育て、それぞれが元気を出して活動し、まちの元気を生み、すべての人々に生きる元気を育み広げていくような寝屋川市を創っていくこと」を基本理念に、「ふれあいいいき元気都市・寝屋川」を「まちの将来像」として、まちづくりを推進していくこととしています。

「まちの将来像」を実現していくための「まちづくりの基本目標」として、

- 元気でいきいき活動できるまちづくり
- 安全で安心してらせるまちづくり
- 文化を創造し生きる力を育むまちづくり
- くらしを支える活力あるまちづくり

を掲げ、「まちづくりのフレーム」として、平成 22 年の人口を 25 万人と想定していません。

このような本市の将来像の実現に向けて、京阪萱島駅周辺地区においては、次のようなまちづくりの方向をめざしていくこととしています。

#### 京阪萱島駅周辺のまちづくりの方向

商業機能を高め、寝屋川や駅構内の楠の木などをシンボルとして、本市の南核としての形成をすすめます。

このような本市の南核としての役割を果たしていくためには、市民の暮らしを支え、訪れる人々に対してもやさしいバリアフリーのまちづくりを推進していくことが必要です。

京阪萱島駅及び周辺地区における交通バリアフリーの推進は、市民や地域に訪れる人々の便利で快適な交流の場を提供していくこととなります。

高齢者や身体障害者などの公共交通機関を利用した円滑な移動を支援していくとともに、バリアフリーの推進による人の集積を促進し、京阪萱島駅及び周辺地区が地域の暮らしの中心として、また、多くの人々の交流の場として充実し、本市の南核の発展を促進する一翼を担うという意義を有しています。